

夏のボーナス商戦に異常あり?!

ボーナスの使い道、「貯金」派が約45%、70%以上が「自由に使えるお金減った」

支給額は30代・40代を中心に大幅ダウン

詳細結果: <http://kakaku.com/research/backnumber018.html>

株式会社カクコムが運営する購買支援サイト「価格.com (<http://kakaku.com/>)」が実施したユーザーへの意識調査「価格.com リサーチ」より、第18回調査『夏のボーナス 2008 ー何にどのくらい使う?ー』から、結果を一部抜粋の上、ご案内します。

価格.com では、2007年夏より、ユーザーに対してボーナスに関する調査を行なっていますが、2008年夏のボーナスについても、「いくらもらえそうか?」「何にどのくらい使うのか?」といった消費意識について、サイト上でアンケート調査を行いました。2007年夏のボーナスに関する調査結果との比較も行っています。

<期間: 2008年5月15日~5月21日、回答者数: 3,244人、男女比率: 男84.3% : 女15.7%>

2007年夏のボーナスに関する調査結果: <http://kakaku.com/research/backnumber011.html>

推定支給額: 働き盛りの30代、40代は昨夏から大幅にダウン

まず今年の夏のボーナス推定支給額を質問した。

回答者全体の平均は58.3万円(男: 60.9万円、女: 42.0万円)で、昨年の夏に実施した同様の調査に比べ4000円ほどの微減となったが、これは誤差の範囲内と考えるとよいだろう。全体としての支給予想額は昨年とほぼ変化ないが、年齢別の内訳で見ると、年代によってもらえる額に差があることがうかがえる。

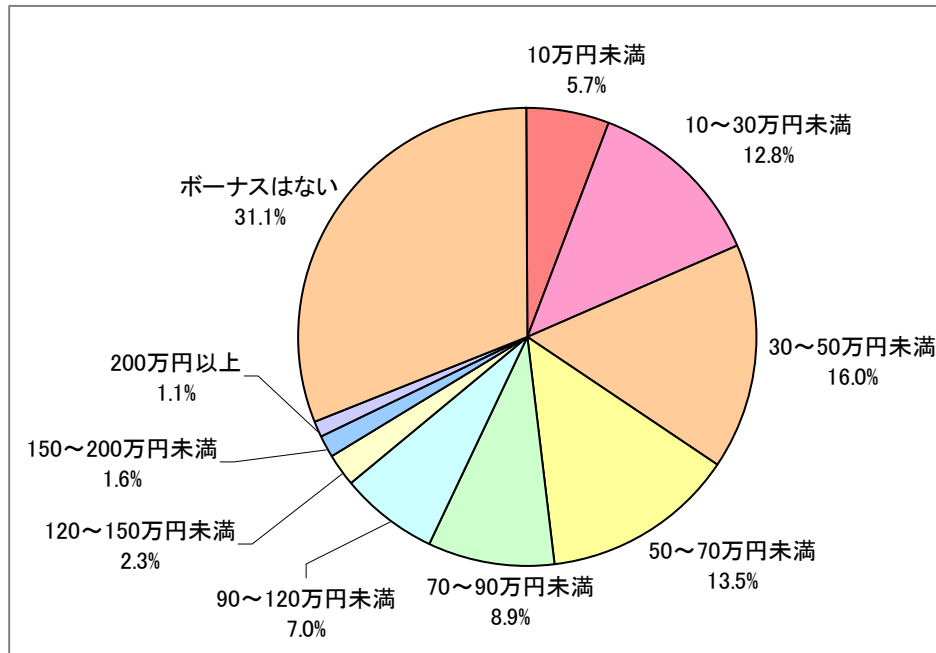
差がもっとも顕著に表れたのは、働き盛りの30代で、昨年調査に比べて5.8万円ダウンの48.2万円となっている。また、その次に減少率が大きいのがこれも働き盛りの40代で、昨年比3.5万円ダウンの66.4万円となっている。逆に増加傾向なのは50代以上で、特に60代以上の増加率が高いが、この層のボーナス支給額が大きいことを考えると、この増加分でほぼ前年並みを保っているものの、働き盛りの20~40代に限ってみれば、実質マイナスとなっていることがわかる。

また、支給額で見ると、昨年と比較して大きい割合の変化は特に見られない(「ボーナスはない」と回答した層が増えたのは、主婦層の回答の増加が主な原因と思われる)。もっとも多いのは30~50万円未満(16.0%)、次いで50~70万円未満(13.5%)、10~30万円未満(12.8%)となっている。このあたりの分布割合は、回答者の年齢分布ともほぼ比例しており、働き盛りの30~40代のボーナス支給額は、ほぼ30~70万円の範囲に収まるものと思われる。

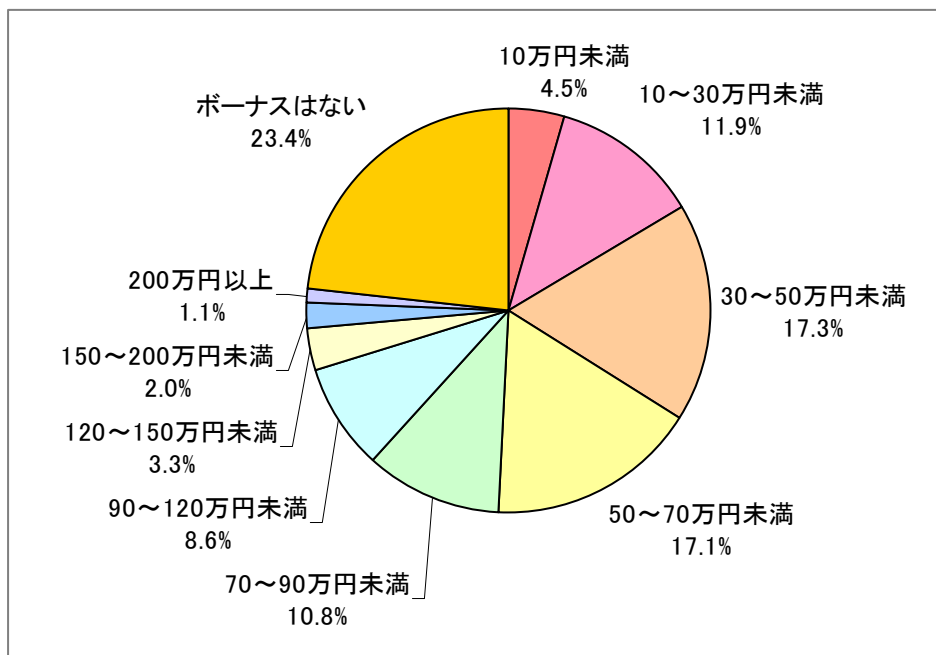
【図1-1. 今年の夏のボーナス 推定平均支給額】

		(万円)		
		2008夏	2007夏	増減
全体平均		58.3	58.7	-0.4
性別	男性	60.9	60.8	0.1
	女性	42.0	42.1	-0.1
年代別	20代	37.0	38.2	-1.2
	30代	48.2	54.0	-5.8
	40代	66.4	69.9	-3.5
	50代	77.5	77.4	0.1
	60歳以上	55.8	52.9	2.9
家族構成別	単身	42.9	58.9	-16.0
	夫婦のみ	57.6	67.0	-9.4
	夫婦と子供	66.3	49.5	16.8
	3世代同居	56.1	34.9	21.2

【図 1-2. 2008 年夏のボーナス推定支給額（全体）】



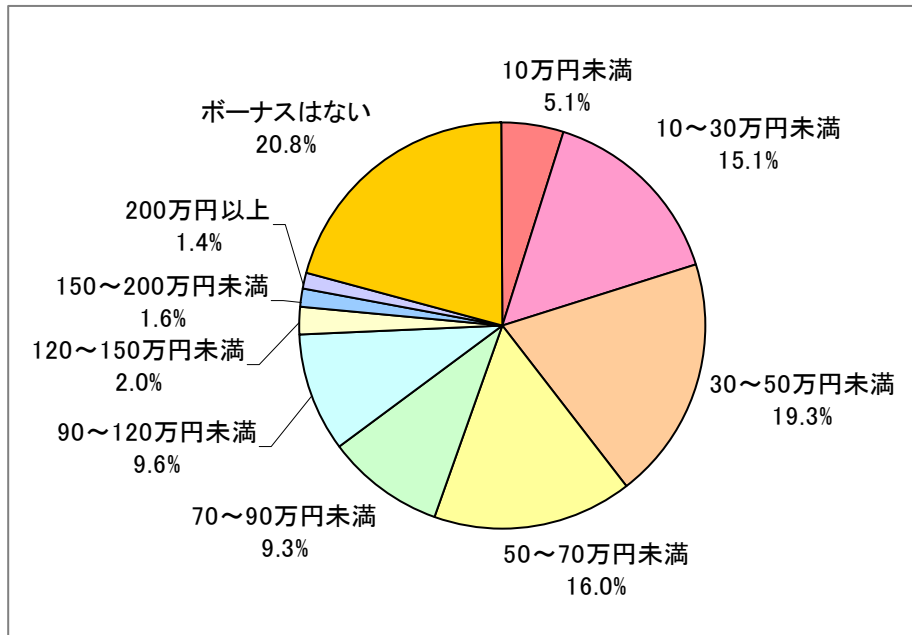
【図 1-3. 2007 年夏のボーナス推定支給額（全体）】



自由に使える金額：ボーナス支給額に対して、8~9割程度

支給されるボーナスのうち、生活費やローン返済に使用する分を除いた「自由に使えるお金」の額を聞いた。この結果を見ると、もっとも多い回答は「30~50万円未満」(19.3%)と、支給額の割合とあまり変化ないが、「10~30万円未満」と回答した割合が15.1%とやや増えている。このことは、支給額の面でもっとも多かった「30~50万円未満」の層のうち、1~2割の人数が、生活費などの必要経費を差し引いた自由に使えるお金が30万円未満と回答したことを表している。全体を見ると、ボーナス支給額に対して、生活費などの必要経費の占める割合は1~2割程度。自由に使える金額は8~9割程度という結果となった。

【図2. ローン返済・生活費の補填などを除いた、自由に使える金額】



70%以上が、「自由に使えるお金が減っている」

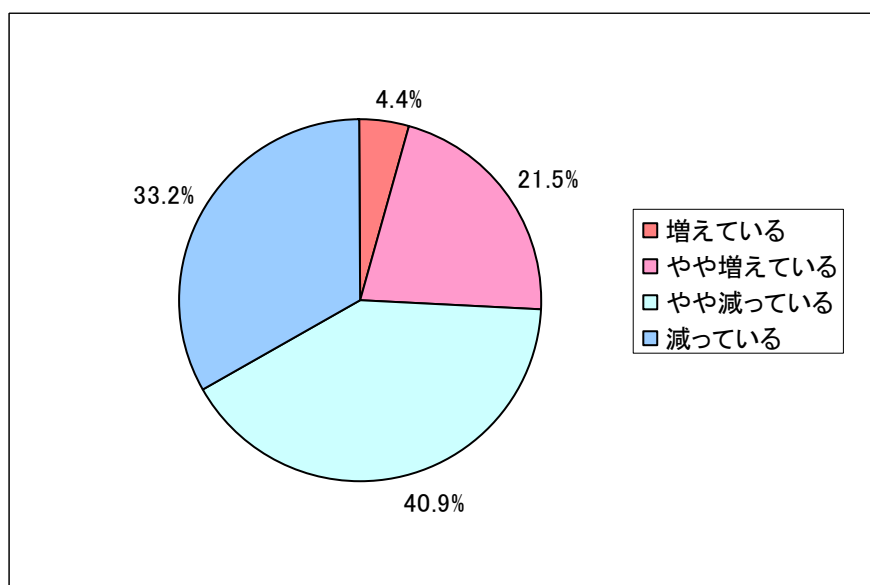
ボーナス支給額のうち、自由に使えるお金が増えたのか減ったのか、その実感を聞いた。

その結果、「減っている」「やや減っている」を合わせた割合は、実に4分の3近い74.1%に達しており、昨年と比べて、実際に手元に残る額が減っている現状が浮き彫りとなった。

年代別に見てみると、「減っている」と回答する割合が多いのは40代以上の高収入層が多い。この層はボーナス支給額も60万円以上と高額だが、使える額で見た場合には減少している割合も大きいようだ。特に50代以上では、支給額自体は増えているはずなのに、使える額では減少傾向ということになっており、生活費や将来への貯蓄・投資といった必要経費が増えていることをうかがわせる回答となっている。

また、働き盛りの30代でも「減っている」と答える傾向は強く、全体の70%が「減っている」と感じている結果となった。

【図3. 実感として、ボーナス支給額のうち、自由に使えるお金は昨年と比べ増えていますか？それとも減っていますか？（全体）】



※上記設問（年代別）の回答結果詳細は以下のURLにてご確認ください

<http://kakaku.com/research/backnumber018.html>

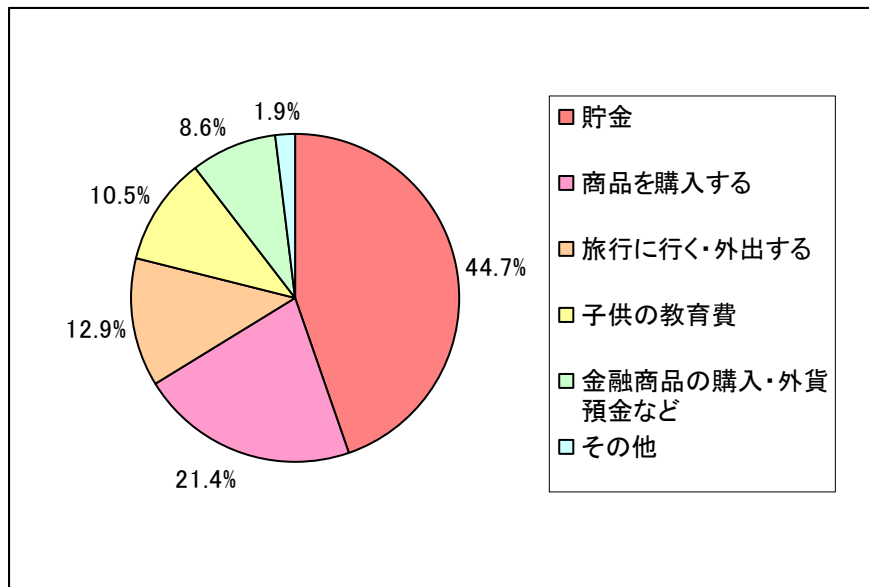
「貯金」が44%！商品購入にける金額は減少

夏のボーナスの使い道について聞いた。

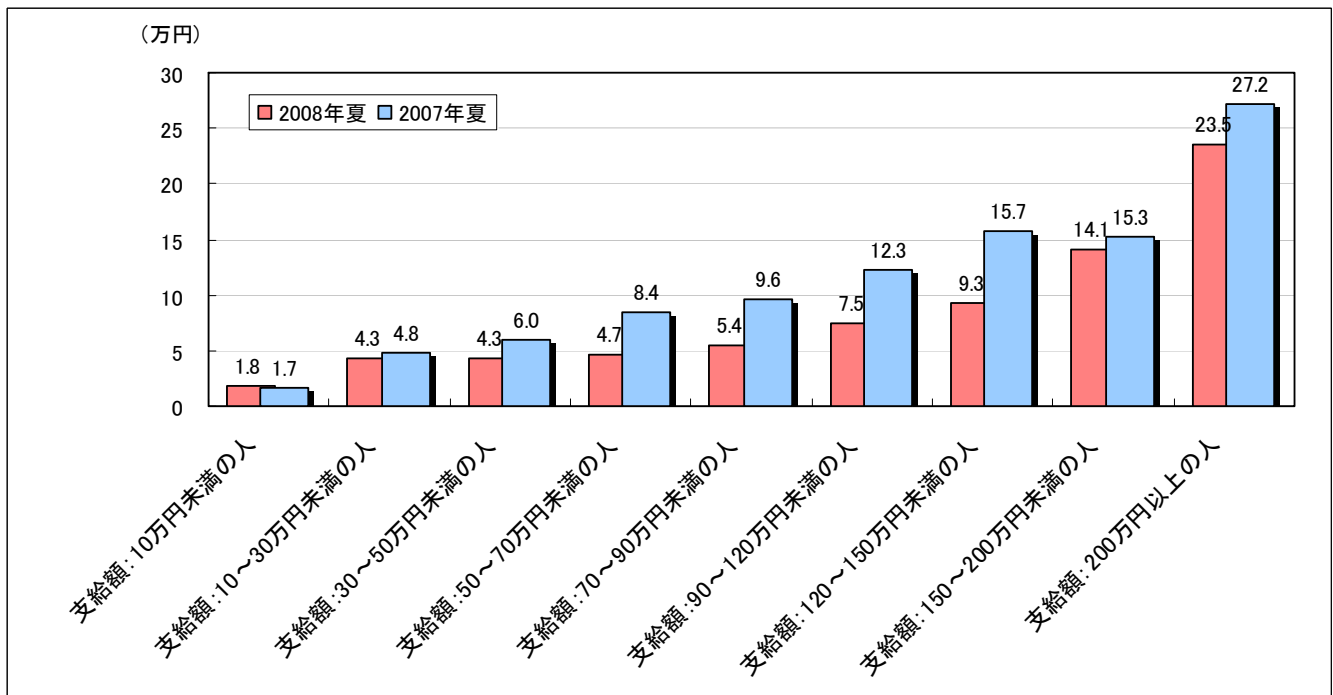
使い道でもっとも多いのは、例年通り「貯金」(44.7%)で、夏のボーナスの半分程度は貯金に回されるという結果が出ている。ボーナスで何かしらの商品を買う割合は21.4%、旅行などの費用にあてる割合が12.9%となっており、「消費行動に費やす」という割合は全体の3分の1程度ということになりそうだ。

一方、「夏のボーナスを使った商品購入にいくらくらいまでかけられるか？」という質問に対する回答を、支給額別に見てみると、支給額のボリュームゾーンである「50～70万円未満」の回答では「平均4.7万円」というかなり低い金額となった。ボーナス支給額が「120～150万円未満」という層でも、商品購入にける金額は平均9.3万円とかなり低い。全体的に見ても、昨年に行った調査と比べて、商品購入にける金額は相当減っており、「買い物をするにしても安いものを」というような傾向がさらに加速していることをうかがわせる結果となった。

【図4-1. ボーナス消費金額内訳】



【図4-2. 夏のボーナスで商品購入にける金額・2007年夏との比較（ボーナス支給額別）】



※「貯金をする理由」回答結果詳細は以下の URL にてご確認いただけます
<http://kakaku.com/research/backnumber018.html>

夏のボーナスで購入するモノ

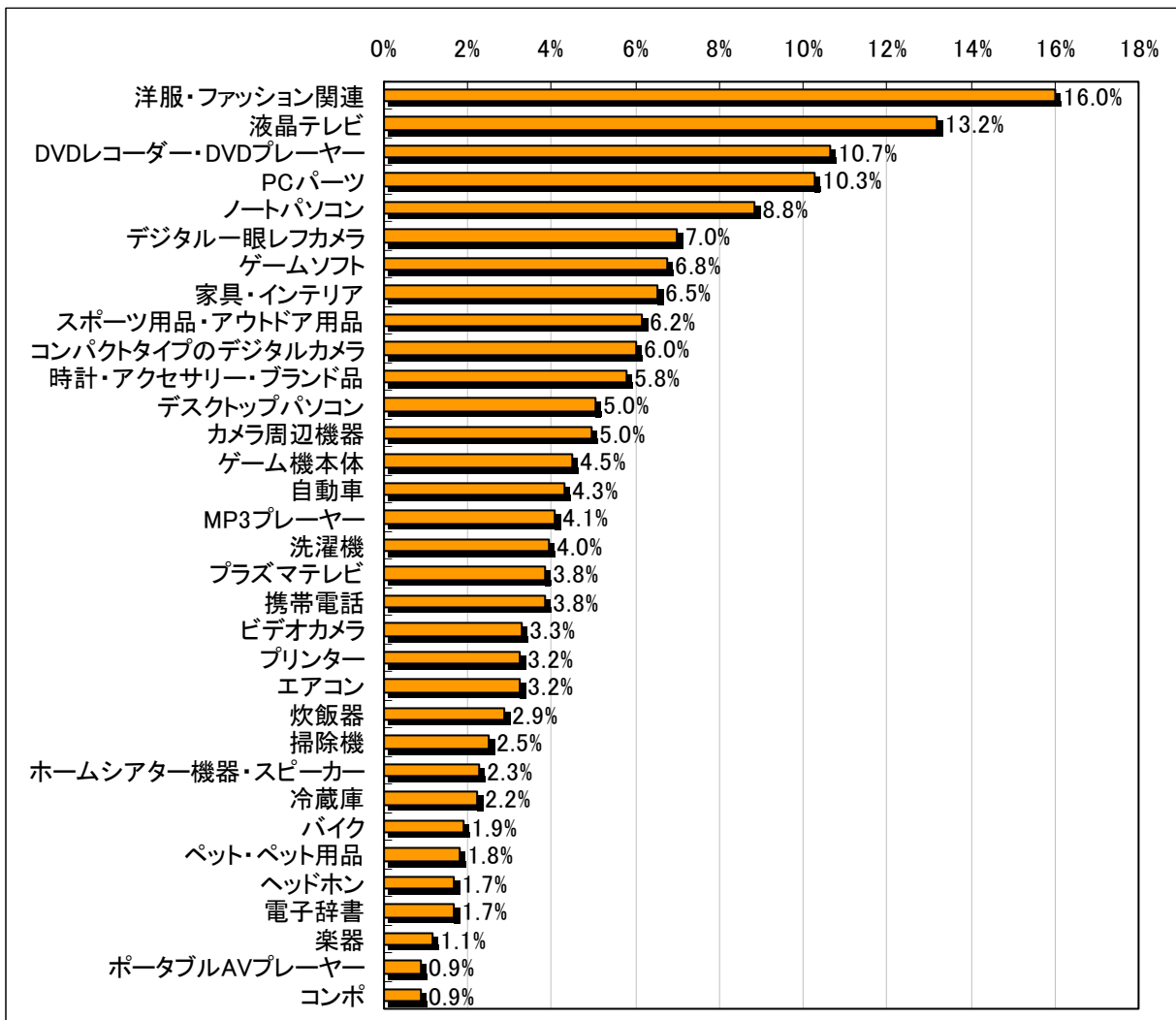
1位、「洋服・ファッション関連」、次いで「液晶テレビ」、「DVDレコーダー／プレーヤー」

夏のボーナスで購入したいと思うものを聞いた。

一番人気は昨年と同じく「洋服・ファッション関連」で16.0%と、昨年調査の11.8%を大きく上回った。男性・女性別に見ると圧倒的に女性の意見が多く(39.5%)、消費者の行動の変化というよりは、回答者の属性に女性が増えたことの影響が大きい。次いで、家電製品がランクインしており「液晶テレビ」(13.1%)、「DVDレコーダー／プレーヤー」(10.7%)、「PCパーツ」(10.3%)、「ノートPC」(8.8%)、「デジタル一眼レフカメラ」(7.0%)となっている。このうち「DVDレコーダー／プレーヤー」が昨年調査から大きくポイントを伸ばしており、昨年の6.5%から4ポイント近くも上昇した。この背景には、今年の夏行われる北京五輪の影響や、ようやく本格的普及が始まったブルーレイレコーダーへの買い替え需要も後押ししているものと思われる。なお、「液晶テレビ」「ノートPC」、「デジタル一眼レフカメラ」も2ポイント程度上昇している。

逆に、昨年よりもポイントを下げたもので顕著なのは、「コンパクトデジタルカメラ」(2.3ポイント減)、「携帯電話」(1.5ポイント減)などがあげられる。

【図5. 夏のボーナスで購入する商品 (ボーナス支給者全体)】



※「夏のボーナスで購入する商品 (男女別)」の回答結果詳細は以下の URL にてご確認いただけます
<http://kakaku.com/research/backnumber018.html>

■総評 鎌田剛 カカクコム メディアクリエイティブ部 部長

2008年夏のボーナス支給予想額について価格.comユーザーに調査した結果は、平均58.3万円。昨年夏の調査に比べてもほとんど横ばいという結果となった。ただし、これを年代別に見ると、30～40代の働き盛りを中心にやや減少している。

この傾向は、他の民間企業による調査結果でもほぼ同様の結果が出ている。みずほ総合研究所のレポート

(<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/japan-insight/NK1080404.pdf>)によれば、2008年夏のボーナスは前年比2.3%の減少の見通しとなっており、三菱UFJリサーチ&コンサルティングのレポート

(<http://www.murc.jp/report/research/bonus/2008/0780.pdf>)でも、2.9%の減少と見込んでいる。

今回の価格.comリサーチの調査結果でもおおむね同様の結果となっており、全年齢で見た場合の支給予想額は昨年とそれほど変わらないものの、働き盛りの30代では3.1%の減少、40代でも2.4%の減少が見込まれる。働き盛りの世代を中心に、ボーナスの減少が見込まれる厳しい結果となった。

今回の調査では、生活費やローンなどの必要経費を除いた「自由に使える金額」に関して質問したが、この金額も「昨年より減った」と感じている人が全体の4分の3にのぼるなど、サラリーマンの懐状況は必ずしも良いとはいえない。こうした自由に使えるお金のうち、商品の購買や旅行・外出など「消費」に使う金額は3分の1程度で、残りは貯蓄などに回すというのが一般的なスタイルといえそうだ。

なお、この夏のボーナスで何らかの商品を購入するとした場合、買い物にける金額では、支給額でのボリュームゾーンの「50～70万円未満」でも、平均するとわずか4.9万円という結果が出ている。支給額から考えると、約1割程度の額しか商品購入に回さないという結果となり、「買い物をするにしても安いものを」という傾向はさらに強まっている感がある。夏のボーナス商戦を見込んでいるメーカーや小売店にとっては、かなり厳しい調査結果といえそうだ。

一方、「夏のボーナスで購入したいもの」のNo.1は、昨年と同じく「洋服・ファッション関連」で、特にこの傾向は女性に顕著である。男性は家電製品を筆頭にあげる人が多く、家電製品では、昨年同様「液晶テレビ」「DVDレコーダー/プレーヤー」「PCパーツ」「ノートPC」「デジタル一眼レフカメラ」といった商材が上位に並ぶ。特に今年は、デジタル放送への切り替えや、ブルーレイレコーダーの本格的普及、北京五輪の影響からか「DVDレコーダー/プレーヤー」を購入したいと答えた割合が増加しており、夏のボーナス商戦の目玉となりそうだ。

逆に、「コンパクトデジタルカメラ」や「携帯電話」を購入すると答えた割合は昨年に比べて下がっており、全体的には3～5万円程度の安い商材よりも、5～15万円程度のやや高価な商材のほうに人気シフトしてきている。ただし、商品購入にかけられる予算の平均額が5万円程度であることを考えると、「これらの商材を購入したいとは思うものの、実際に買えるかどうかは微妙」といった消費者の心理がうかがえる。

全体的に昨年夏と比較すると、夏のボーナスの支給額は、若干減少傾向にあり、家電製品など商品購入に使う金額は大きく減少している結果となった。北京五輪を目前に控え「液晶テレビ」や「DVDレコーダー」といったテレビ関連製品の人気は強いものの、購入に関してはかなり慎重に値段などを見据えながら検討、という消費者の姿が浮き彫りになった形だ。

※フリーアンサーを含む詳細結果、および過去のリサーチアーカイブは以下URLをご参照ください

<http://kakaku.com/research/>

【価格.comについて】

パソコン、家電、カメラをはじめ、ブロードバンドや携帯料金プラン、自動車保険、生命保険など

約2,320万点の商品・サービス情報を掲載。

月間利用者は、約1,232万人（重複なし）、蓄積されたクチコミは累計760万件を超える。

（データは2008年4月末現在）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社カカクコム 広報担当 甲斐 内山 e-mail: pr@kakaku.com Tel: 03-5805-7511